

第1回佐賀市総合・地域分科会 議事録

◆ 日時

令和6年6月27日（木）10:00～12:25

◆ 会場

ホテルマリターレ創世 佐賀 3階 グラツィアホール

◆ 出席委員（敬称略、五十音順） ※◎は分科会長

小城原直、鳥井智子、野田直子、野中明、林正博、福成有美、宮城亮、宮崎陽治、
◎山下宗利、渡島隆章、

◆ 欠席委員（敬称略、五十音順）

山田健一郎

◆ 事務局

武富政策推進部長、片渕市民生活部長、筒井地域振興部長、志波政策推進部副部長、
渡辺広報課長、南雲国際課長、白濱企画政策課長、藤本行政マネジメント課長、
木原DX推進課長、橋本男女共同参画課長、福田都市政策課長、岡協働推進課長、
江頭スポーツ振興課長、小林歴史・文化課長 外

◆ 傍聴者

0名

◆ 議事要旨

1 開会

≪説明≫

○次期総合計画と次期総合戦略の概要に関する説明（事務局）

≪自己紹介≫

○各委員・事務局の自己紹介

2 議事

(1) 政策「基本構想」「文化・スポーツ」「コミュニティ」「行政経営」について

≪説明≫

○「基本構想」に関する説明（事務局）

《意見交換等》

○分科会長

ただいま、「基本構想」の概要について説明が行われた。この内容について、ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

前回会議の事務局の説明を聞いて、人口減少について高齢化を中心に考えられていると感じた。都市中心部や産業の衰退によって、働き先がなく若者が流出していることが過疎化や高齢化に繋がっていると考えており、高齢化を中心に計画を作成すると、こういった課題が軽視されてしまうのではないかと。こういった佐賀市が抱えている課題を洗い出して、何が重要な課題なのかを抽出する必要があると思う。

佐賀市の抱える大きな課題は3つと個人的に考えている。

1つ目は人口減少。人口減少が進んでいけば過疎化などの対策が必要になると思う。2つ目は交通機能。佐賀駅が機能していないなどの課題がある。3つ目はまちの機能。都市構造が古い。和風のふすまや畳、押し入れがあるような古い家には誰も暮らそうとしないのと同じで、今も古い都市構造のままであることは大きな課題である。

また、計画の中に具体的な案や数値目標は置くべきではないか。数値目標がないと、市と市民が何に向けて協力して頑張ればいいのか、分からないと思う。

○分科会長

この審議会では基本構想と基本計画の方向性として、佐賀市をどのようなまちにしていくのか？ということ議論する場だと考えるが、本意見に関しての事務局の考えはいかがか。

また、3つの課題が挙げられたが、いずれも市が直面している克服しなければならない課題だと思う。これまで先人が築きあげてきた都市をどのように活用していくのかを基本構想の土地利用や基本計画の中で、方向性を示していき、それをこの場で議論したいと思っているが、この点についても事務局の考えはいかがか。

○事務局

人口構造は将来的に変わっていくという推計をしている。人口構造が変わることで、どのような問題が出てくるのか、それを推測しながら施策を先手で打っていくことが大事だと考えている。具体的な課題感というよりも、人口構造の変化に対する大きな方向性を基本構想の中で示したいと考えている。

交通機能については、現計画においても公共交通に関する施策があり、市民意向調

査の中で公共交通に関する施策の満足度については、評価が低いのが実情である。この状況とタクシーとバスの運転手不足などの状況を踏まえて今後の施策を考えていく必要があると考えている。次期計画でも都市・交通という政策分野を置いているので、具体的な施策については、その中で示していきたい。

都市構造については、土地利用の考え方について示しているが、詳細は都市計画マスタープランの中で今後の土地利用と都市政策のあり方について詳細な方針を定めている。意見として、都市構造が古いと言われていることをもう少し詳しくお聞かせいただきたい。

○委員

改めて3つの課題について詳細を個別に説明させていただきたい。

1つ目の人口減少について、前提として人口減少が何故起きているのかを原因を追究することが必要だと思う。佐賀市は個人的には、人口減少などまちづくりの重要な部分に目を向けられていないと思っている。現状、人口が20万人を切ろうしており、そうなってくると、中核都市の指定が切れて、保育所の制限が掛かったり、国からの補助金下がったり不都合なことが起こる。人口が減少し続けると、市民の生活にも不都合が生じる。人口減少の課題を追究して解決していけば、人口増加も見込めると考えている。個人的には人口30万人も目指すことができると思っている。

2つ目の交通機能については、佐賀市公共交通計画が策定されているが、内容が偏っており、バスのこと言及しているのみだったので鉄道のことをもっと考慮するべき。

3つ目の都市構造が古いことについては、長崎街道は中心街を避けるようにあえて道路が作られていたり、土地の形態もせまくいびつな形態になっていたり道路状況が悪い。国道が整備され中心街に人が集まるようにもなったが、バイパスが新たに整備されたことで、中心街を迂回するようになった。また、旧佐賀駅が旅客と貨物、物流機能を有していたものが、現在の新しい佐賀駅は旅客専用駅となったことで機能が低下したと考えている。物流機能がなくなったことで、佐賀駅の地域貢献度は以前から10分の1以下に下がったと思う。旧佐賀駅が人や物を引き付けるものだったのが、変わってしまったので中心街が衰退したと考えている。

○委員

人口の自然減は全国的な問題なので、仕方がないと思う。社会減をどのように食い止めるかとなると、ベースになるのは経済であり、日本経済新聞によると、近年は観光産業がトレンドとして重要視されてくる。長崎街道にはほとんど人が歩いていない、なぜならば何の魅力もないからである。長崎街道を集客性の高い観光地と

して開発するなどの具体的な取組が計画の中に織り込まれている必要がある。経済の発展なくして、人口減少の問題は解決しないと考えている。

また、これまでの計画のチェック&エラーを徹底して進捗管理はしっかりやらないといけない。

○分科会長

この分科会では、基本構想と政策分野の「文化・スポーツ」「コミュニティ」「行政経営」について議論をするものであるため、経済・観光分野の具体的な取組の方向性については、経済・産業分科会にて議論されることであり、まずは基本構想の全体的な方向性を議論させていただきたい。

○委員

現実問題として、佐賀市が衰退の連続を繰り返している要因は計画のチェック&エラーをしているかどうか、行政はもっとしっかり進捗管理をしていかなければならないと思う。例えば、佐賀市観光戦略プランは平成13年に作成されているが、この計画通りには何も実現していない。これが現実であり、この問題を解決しないといけないと考えている。

○委員

計画を見ると個別具体的な提案の意見を言いたくなってしまうが、この計画の策定の背景等の前後関係など説明があれば、本会議の中で決めるべきこととそうでないことの、論点の整理ができると思う。例えば鉄道の話は市だけで決められることではないと思うので、改めて論点の整理をお願いしたい。

○事務局

他分科会に関する意見については、各分科会へ意見共有は行いたいと思っている。また、総合計画は佐賀市の最上位計画である。まずは佐賀市がどういうまちになって欲しいかというところを本会議で議論いただきたい。基本構想は、まちの将来像を掲げる大きな考え方を示しており、将来像を達成するための具体的な手法は実施計画で示される。本会議では具体的な手法ではなく、基本構想として示している、今後の佐賀市がどのような姿になっていくべきなのかという大枠の考え方について意見を頂戴したい。

○委員

松原公園周辺の将来像も掲げられているが、これまでの現状等を踏まえての計画を作成して欲しい。

○事務局

基本計画の中で、それぞれの政策の方針については説明させていただく。今回の総合計画においては、現状等を踏まえてロードマップのような作成の仕方もあるとは思いますが、一旦は現状等を考慮せず、第一に将来的にどのようなまちになりたいのかという将来像を掲げている。そして、現状を踏まえた上で将来像に到達するために、どのような事業を打っていくのかという発想で計画を作成している。

《説明》

- 「文化・スポーツ」に関する説明（事務局）
- 「コミュニティ」に関する説明（事務局）
- 「行政経営」に関する説明（事務局）

《意見交換等》

○分科会長

ただいま、各政策分野の概要について説明が行われた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

持続可能な佐賀市というのが説明の中心にあったと思う。その中で、佐賀らしい文化という考え方が市全体として一致しているのか。佐賀らしさとは何なのかを統一させる必要があると思う。次回までには、佐賀らしさについて、統一した定義付けを皆が理解をした上で計画策定を進めるべきだと思う。

○事務局

素案の p. 24 にて将来像の中で佐賀らしさを例示しているが、定義付けをするのは難しいと考える。この分科会では、どのような佐賀らしさを大切にしてまちづくりを進めていくべきか等を意見交換しながら、佐賀市の良いところや悪いところなどの特徴についても議論を深めていただきたいと思っている。

○分科会長

各分野における佐賀らしさについて、それぞれ皆さまが違う考えを持っていると思うため、次回以降の会議にて議論ができればと思う。

○委員

将来像は 2040 年に佐賀市にありたい姿だと理解している。みんなが共感しワクワ

クするような文章になっていることが理想的だと思う。佐賀らしさという言葉聞いて、それぞれ皆が感じることは違うため、その中で佐賀らしさが何なのかを限定するのは難しく、ただ皆が共感できるようなイメージも確かにあるとは思いますが無理に定義付けするものではないかと思う。

将来像の中に市民参画の視点が不足しているのではないかと思う。市民も行政サービスをただ受けるだけでなく市民も主体となって参画し、みんなでまちづくりをしていくことが佐賀らしさに繋がると思う。みんなが上を向きつつも、参画したい、参画してよかったというまちづくりを目指していくという文面があればよりよい文章になると思う。みんなが上を向いているだけで、そこに参画していなければ良くないのではないかと感じたため将来像の文面はもっとブラッシュアップできると思っている。

また、p. 47～48 の政策分野の「コミュニティ」の主なポイントの1つ目の文末、「同時に他人を思っていること」というフレーズについて、口頭説明では「同時に他人を思い合っていること」ということであつたが、「思い合っていること」という言葉が大事だと思う。またそれに伴って、p. 48 の「2 自分らしく幸せに暮らす社会の実現」というフレーズがあるが、個人個人が「自分らしく幸せに暮らす」ことを追求すると、ぶつかり合ってしまう。フレーズとしては、「自分らしく幸せに暮らしかう」のほうが個人的には望ましいと思う。

○事務局

第3次計画はこれまでの計画に比べて文章量をスリムにしている。その狙いは市民参画で一緒にまちづくりを進めていきたいという気持ちも込めて、伝わりやすい・分かりやすい計画としたいという思いがあり、スリムな計画を作成している。伝わりにくい・分かりにくい表現がないかというところの意見を今後もいただけると幸いである。

○委員

人は幸せに生きたいとか面白いとか楽しいところに集まると思う。そういったまちづくりを進めていくにはリサーチが重要だと思う。以前は人を集めるには企業誘致などが考えられてきたが、仕事だけでなくとも音楽や芸術があふれていたり、カフェやショップが並んでいたりなど人が集まっているから楽しいに繋がっている。いつ幸せを感じるかなどの簡単なアンケートを集めて、それが実現できるような仕掛けができればいいのではないかと思う。情報発信についてもタイムリーな話題を常に追いかけてPRをしていくことも大事だと思う。

3 閉会